



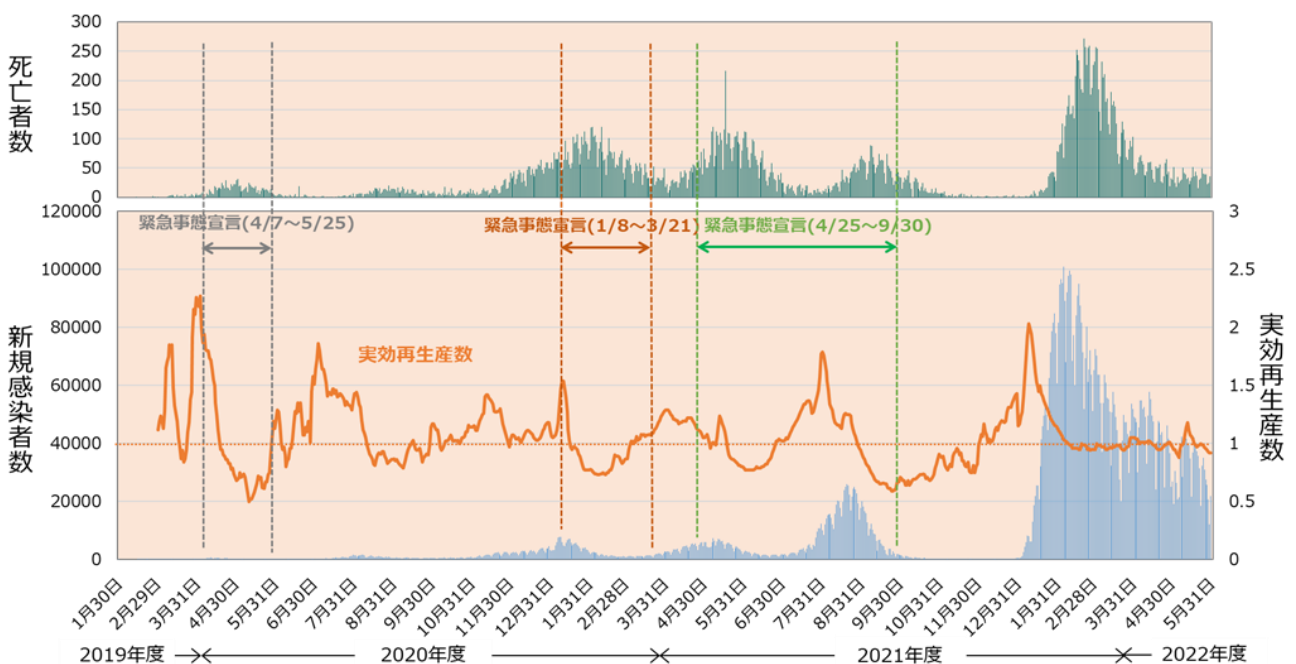
新型コロナウイルス感染症 2年半経過

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月に中国の武漢で最初の市中感染が報告され、2020年1月以降には全世界に感染が拡大「パンデミック」となりました。この感染症が流行してから2年半が経過しています。感染症予防を行うことが、日常生活の前提となり、日頃の習慣や行動に大きな変化が起きました。この先の感染状況がどのようになるのかわかりませんが、これまでに様々な解析や報告もされています。100年前に全世界で大流行したスペイン風邪、そして新型コロナウイルス感染症が流行する前の季節性インフルエンザが流行していた2018年頃の状況などが報告されています。これらを対比させながら2020年1月から2022年6月までの振り返りを行ってみました。

○日本における新型コロナウイルス感染症流行の状況（～2022年6月末）

日本国内では、2020年1月15日に国内で新型コロナウイルス感染症の最初の感染が確認され、2月13日に死者が報告されました。そして、これ以降国内での感染拡大が始まりました。2020年は、3回の感染流行の波が起きています。従来株からウイルスが変異してアルファ株の流行となり、2回の緊急事態宣言（2020年4月7日～5月25日、2021年1月7日～3月21日）が発動されました。最初の緊急事態宣言が発動された時には、繁華街などの街角から人の姿がなくなるということも起きました。

2021年度は、新たな変異株であるデルタ株の流行と共に第4波と第5波となる感染拡大が起き、3回目となる緊急事態宣言が2021年4月23日～9月30日までの5カ月間に渡り発動されました。その後2021年の10月から12月にかけては、日本国内の感染者数も1日当たり100名程度と少ない状況となりました。

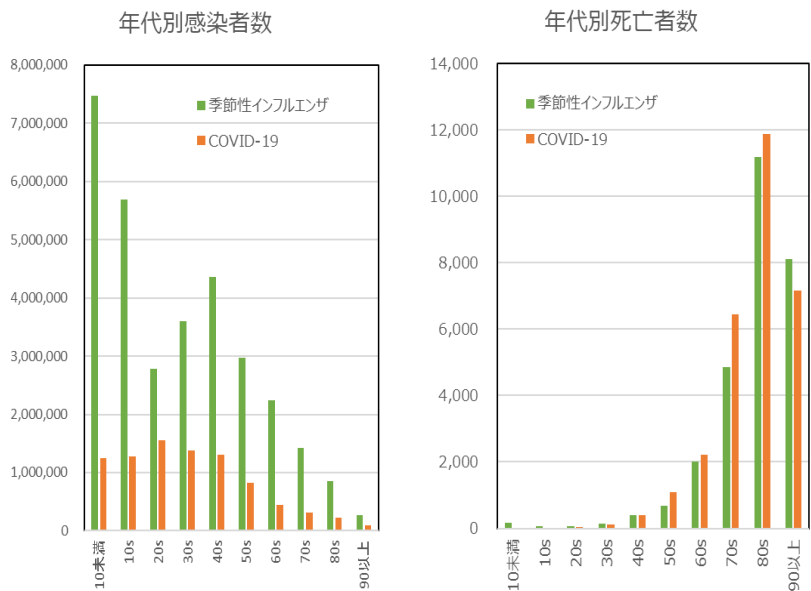


しかしながら、2022年1月以降では、更なる変異株であるオミクロン株の流行により大幅な感染者数の増加となり、1日あたりの感染者数が約100,000名となる大きな第6波の流行を迎えました。その後、感染者は減少していますが、2022年5月末において、1日あたりの感染者数は20,000名程度で、第5波のピークの感染者と同程度の感染者数となっています。

日本国内の2022年6月30日に公開された新型コロナウイルス感染症による総死者数は、31,266名で陽性者総数は9,305,998名です。国内で感染が始まった2020年1月から2021年12月末までの2年間の死者数は18,387名で同期間の陽性者総数は1,732,007名となり、その割合は1.06%になります。一方で、2022年1月から6月末までの6ヵ月間の死者数は12,879名で同期間の陽性者数総数は7,573,991名となり、その割合は0.17%となりました。2022年になってからは、陽性者数は約4.4倍となりましたが、陽性者総数に対する死者数の割合は、約1/5となり大きく改善されつつあるのが6月末の状況です。¹⁾

○季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の対比

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起きる前は、毎年のようにインフルエンザが流行していた予防疫接種を受けたのではないのでしょうか。季節性インフルエンザの2017年9月から2020年8月までの3年間の感染者数と死亡者数が公開されていますので、2年半経過での比較とはなりますが、年代別の感染者数と死亡者数のグラフを示します。高齢者においては、感染数が少ないのに関わらず死亡者数がほぼ同数となっています。²⁾



季節性インフルエンザと100年前のスペイン風邪の各々3年間の感染者数と死亡者数、そして新型コロナウイルス感染症の2年半の感染者数と死亡者数を表にまとめました。^{3), 4)}

1918年当時は、日本の人口は5500万人で、ウイルスの存在も解明されておらず、ワクチンもまだありません。現在の人口は1億2550万人です。

	感染者数	死亡者数
スペイン風邪	23,804,673	388,722
季節性インフルエンザ	31,665,539	27,679
新型コロナウイルス感染症	9,305,998	31,266

人口の違いもあるので、各ウイルス感染症の感染者数だけでは比較はできません。感染者数は季節性インフルエンザが一番多くなります。一方で、死亡者数はその感染者数に対する割合も含めて100年前からは、大きく減少はしています。新型コロナウイルス感染症は、最新の医療技術が開発され投入されましたが、年代別死亡者数や感染者数に対する死亡者数の状況から、特に基礎疾患のある方や高齢者にとっては、季節性インフルエンザよりも感染してしまうと死に至る恐ろしい病気であることが分かります。

少しずつ、日常が戻りつつある状況で、常にマスクをつける生活によって熱中症へのリスクが増えることや、口を隠すことによる子どもの発育への懸念なども考えられます。メリハリのある対応が必要です。人との距離が保てない時はマスクを装着する、日頃から手洗いを心がけるなど、重症化の可能性の高い高齢者への感染を少しでも予防する。感染した時の重症化を避けるためワクチン接種なども活用するなど、各自できることを日々行うことがとても大切です。

<参考資料>

- 1) 第89回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード（令和4年6月30日）
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000959350.pdf>
- 2) 第74回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーレポート（令和4年3月2日）
 日本の医療データベースから算出された季節性インフルエンザの重症化率
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000906106.pdf>
- 3) 「流行性感冒」、国立国会図書館デジタルコレクション
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/985202>
- 4) 「流行性感冒」内務省衛生局著（1922.3）
<https://www.niph.go.jp/toshokan/koten/Statistics/10008882-p.html>
- 5) 厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ
 新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html
 消毒や除菌効果をうたう商品は、目的に合ったものを、正しく選びましょう。
https://www.caa.go.jp/notice/assets/consumer_system_20200626_01.pdf
 新型コロナウイルス対策 身のまわりを清潔にしましょう。
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000645359.pdf>

